

【基本施策の目的】

男女がお互いにその個性と能力を十分に発揮することによって、多様性に富んだ活力ある男女共同参画社会の実現を目指します。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	<p>基本施策の指標値は基本的に改善傾向にあるものの、依然として、固定的な性別役割分担意識の解消や男女共同参画への理解の促進、政策・方針決定の場をはじめ、職場・家庭・地域など、あらゆる場面における男女共同参画の実現という取り組むべき課題もあり、今後も本市としてしっかり取り組んでいく必要がある。</p> <p>しかし、当面は基本的に現状の取り組みを継続的に進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度は普通と判断した。</p>

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
男女の区別なく活動できていると思う市民の割合	%	実績	58.4	54.3	54.3	57.0	59.0	<p>指標の値は、全体としては、平成26年度に基準値より減少して以降、平成28年度から増加傾向にある。しかし、男女別で見ると、男性よりも女性のほうが割合が低く、その差は9.0%であり、昨年度の3.2%から差が広がっている。職場や家庭等において、活動に男女差があると考えられる。また、年代別では、10歳代78.4%、20歳代71.0%と割合が高い。</p>	<p>国の働き方改革を始め、ワーク・ライフ・バランスの推進や女性活躍の推進等、男女共同参画に関する取り組みがあるため、当該指標値は横ばい、もしくは少しずつではあるが目指す方向性のとおり増加傾向にあると分析する。</p> <p>本市としては、こどもの頃からの家事参加支援・キャリア支援、男性を対象に家事・育児・介護等への参加支援、女性が社会で活躍できるように必要なスキルアップ支援等を継続的に実施する。</p>
		目指す方向性							
子育て・介護と仕事の両立のための支援が充実していると思う市民の割合	%	実績	46.4	45.2	39.7	43.2	46.3	<p>指標の値は、平成27年度に基準値より減少して以降、増加傾向にあり、ほぼ基準値まで回復した。30歳代、40歳代の子育て世代では、両立支援が充実していると思う割合が48%台と高いが、60～64歳代では36.1%と最も低い。子育てと仕事の両立の環境は整いつつあるが、介護と仕事の両立には更なる環境等の整備が必要であると考えられる。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、今後も引き続き、子育て・介護環境の整備、仕事との両立支援策についての情報発信を強化する。</p>
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

<p>経常事業</p>	<p>削減に関する具体的な考え方</p>	<p>男女共同参画講座開催事業は、平成29年度からの事業であるが、事業費を削減しても今後も講座の開催を見込むことができる。そのため、報償費(講師等謝礼)部分の内容を見直し、国や県をはじめ、全国女性会館協議会、女性労働協会、企業との協働での講座開催を目指すことで、8節より、80千円削減する。</p>										
<p>実施計画事業</p>	<p>資源投入の考え方</p>	<p>平成33年度末で、現行の第3次小牧市男女共同参画基本計画「ハーモニーⅢ」及び女性活躍推進計画の計画期間が満了するため、次期計画を策定する。それぞれ男女共同参画社会基本法、小牧市男女共同参画条例及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく法定計画であり、策定期間は平成32年度から33年度までの2年間とする。</p> <p>◎(仮称)第4次小牧市男女共同参画基本計画「ハーモニーⅣ」の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意向調査の実施 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>市民(20歳以上)</td> <td>3,000件</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>300件</td> </tr> <tr> <td>小学5年生</td> <td>1,600件</td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>1,550件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,450件</td> </tr> </table> ・第4次小牧市男女共同参画基本計画の策定 ・女性活躍推進計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> ※男女共同参画基本計画と一体のものとして位置づける ・計画期間:平成34年度から平成38年度までの5年間とする 	市民(20歳以上)	3,000件	事業所	300件	小学5年生	1,600件	中学2年生	1,550件	計	6,450件
市民(20歳以上)	3,000件											
事業所	300件											
小学5年生	1,600件											
中学2年生	1,550件											
計	6,450件											

展開方向1	名称 男女共同参画意識を高めます									
	目的 ○男女の固定的な性別役割分担意識の解消と男女共同参画への理解を促進します。									
	所管課 まなび創造館									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
男女共同参画という言葉の意味を知っている市民の割合	%	実績	45.8	44.7	45.6	47.3	46.8	指標の値は、全体としては、目指す方向性のおり増加傾向にある。小学5年生を対象に男女共同参画啓発冊子「はばたけ未来へ」を配布して、学校教育の中で取り組まれているため、学生の認知度は80.3%で非常に高い。また、年2回の男女共同参画情報誌の全戸配布や講演会等、多くの市民が集まる機会での広報・啓発活動、各行政区における男女共同参画普及員による積極的な活動が増加の要因として考えられる。	男女共同参画に関する学習を学校教育の中で継続的な取り組みを推進し、また、男女共同参画情報誌の全戸配布などの広報・啓発活動は、対象とする年代を絞り、対象に合わせた内容で活動することで、一定のプラス効果があると考えられる。	
		目指す方向性	↑							
男女共同参画をテーマとした各種講座・講演の参加者数	人	実績	4,471	2,875	2,216	2,026	1,380	指標の値は、減少した。その要因は、男女共同参画に関する講座事業を見直し、女性のキャリア支援や再就職支援、男性の育児・家事参加支援など目的を明確化し、受講対象を絞り込み、講座開講数を減らしたためである。	今後の指標値の見直しであるが、今後も引き続き目的・対象を絞り込んで講座を開催するため、基準値よりは減少するが、今後は、平成29年度実績値を基準値とし、改善を図っていく方針である。	
		目指す方向性	↑							
展開方向2	名称 あらゆる分野への男女共同参画を促進します									
	目的 ○職場・家庭・地域などあらゆる場面における男女共同参画の実現を支援します。									
	所管課 まなび創造館									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
審議会等附属機関への女性の登用率	%	実績	28.1	30.0	29.5	29.5	28.1	指標の値は、全体としては、目指す方向性とは逆に減少の傾向にある。平成28年度に比べ、平成29年度は、全体の委員数が75名減少したが、女性の委員数は35名の減少に踏みとどまった。しかし、依然として女性委員0の審議会があること、委員改選の折、女性委員の推薦を団体へ依頼したが、男性委員の推薦があり女性委員が減少したことも減少の理由として考えられる。	市の審議会等附属機関への登用率の向上のため、女性人材バンクへの登録者を増やすための人材育成、人材の発掘を継続的に展開し、関係各課へ紹介するなど働きかける。	
		目指す方向性	↑							
ウィメンズネットこまきの加入団体数	団体	実績	14 (H25年度)	17	13	11	11	団体の規約改正により男性グループが加入できるようになったため、指標値はH26度に増加しているものの、H27度から、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。その主な要因は、団体構成員の高齢化に伴う活動の停滞のためであると考えられる。	団体構成員の高齢化により活動が停滞する団体が多いと予測されるため、加入しやすいネットワークづくりに取り組んでいく。また、ホームページやフェイスブックを使い、構成員の若い団体の目にとまりやすく、加入につながるよう工夫することで指標値の改善を図っていく。	
		目指す方向性	↑							

展開方向3	名称		男女共同参画推進体制を整備します						方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的		〇男女共同参画を推進するための体制を充実します。							
	所管課		まなび創造館							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
女性相談の窓口を知っている女性の割合	%	実績	52.1	44.7	46.9	48.4	49.0	<p>指標の値は、H26度に基づき、基準値より減少して以降、増加傾向にある。その主な要因としては、女性相談の窓口の周知について、広報への掲載、公共施設や大型スーパーの女性トイレへの女性相談カードの設置であると考えられる。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、指標値増加の主な要因である女性相談の窓口の周知の方向性のとおり増加傾向にあると分析する。</p> <p>今後の対応であるが、女性が抱える様々な悩みに対応するために、関連する男女共同参画推進事業(女性相談事業)を継続し、更なる指標値の改善を図っていく方針である。</p>	
		目指す方向性	↗							
女性相談でDV相談が受けられると知っている女性の割合	%	実績	69.7	65.0	70.0	78.6	74.4	<p>指標の値は、全体としては目指す方向性のとおり増加傾向にある。要因としては、女性相談の窓口の周知と同時に、DV相談の周知を行っていることが考えられる。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、指標値増加の主な要因である女性相談周知と同時にDV相談の周知を行うことで目指す方向性のとおり増加傾向にあると分析する。</p> <p>今後の対応であるが、加害者に場所が特定されないように慎重に女性へDV相談の窓口の周知を行いながら、目標値の改善を図っていく方針である。</p>	
		目指す方向性	↗							